

3. 財政的状況

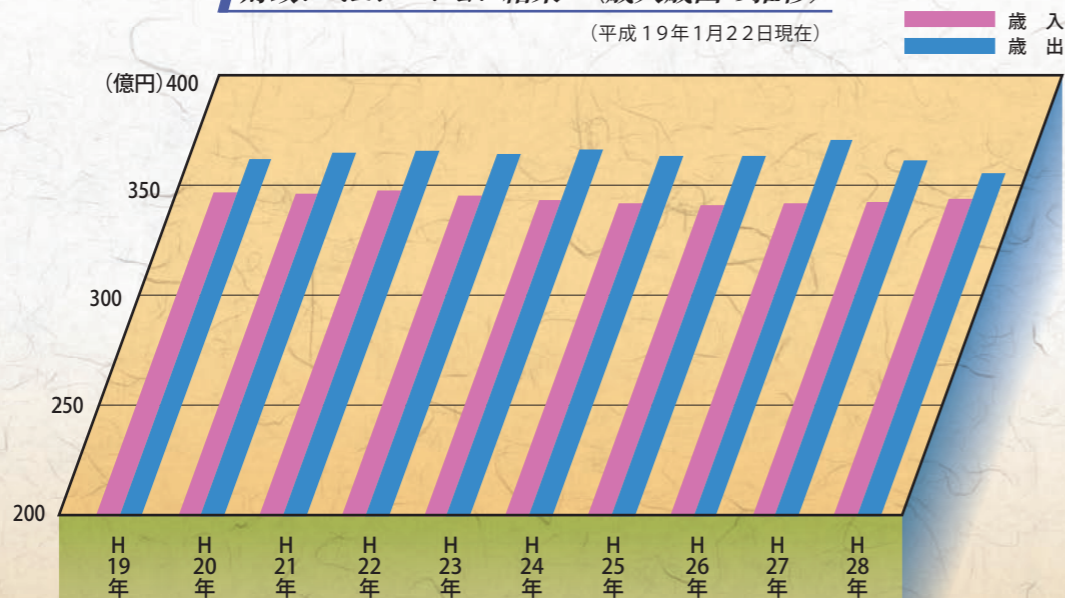
近年、地方自治体は、少子高齢化や福祉関連経費の増加、三位一体改革等の影響を受けて厳しい財政状況に置かれている一方で、複雑・多様化した社会情勢や市民ニーズにも的確に対応しなければならず、非常に難しい運営を迫られています。

本市においても、今後の歳入においては、大きな伸びが見込めなくなっています。他方で、歳出に関しては、八木駅前南整備、ごみ焼却施設やし尿処理施設等の大規模な都市基幹施設の整備に伴う地方債残高の増加や公共施設の耐震補強等の維持補修、高齢化の進行に伴う社会保障関係経費等の義務的経費の増加等が見込まれ、これからの10年間は更に厳しい財政状況となることが予想されます。

このような財政状況の中で、市民サービスの水準を低下させることなく、中長期的に持続可能な財政運営を行うためには、自主財源の確保につながる施策の推進が重要です。また、創意と工夫による事務の効率化、抜本的な事業構成の見直しや事業の優先付け、「あれもこれも」から「あれかこれか」の「選択と集中」への行政運営の転換等、行財政改革の道筋を立て、歳出を可能な限り抑え、歳入規模に応じた適正な財政規模を目指す必要があります。

財政シミュレーション結果 <歳入歳出の推移>

(平成19年1月22日現在)



(注1) 単年度の歳入歳出の実態を表すため、基金の取崩しを考慮していません。
 (注2) 平成19年度の当初予算は、財政調整基金等を取り崩して編成されています。

檀原市の目指すビジョン〈将来像〉

まちづくりの理念

「人とともに、歴史とともに、
 やさしく強いまち かしはら」

市民をやさしく包み込む檀原、市民を強く守る檀原を、豊かな歴史文化とともに人と人が思いやり支え合いながら、市民と行政が協働して創りあげていくことをまちづくりの理念とします。

将来像

「歴史・文化と人がつくる交流都市」

受け継がれてきた豊かな自然・歴史・文化をまちづくりに活かし、国内外の多くの人々、情報、文化が交流する、活力と魅力にあふれた都市を目指します。

この章は、本市の土地利用構想及び「市民と行政の協働によるまちづくり戦略」として、市民の声を基に作り上げた、檀原市の目指す姿である10の都市像で構成されています。それぞれの都市像ごとに「現状と課題」並びに市民と行政のそれぞれの役割として「市役所の役割」及び「市民への期待」を示し、市民と行政の協働により「まちづくりの指針」に掲げた都市像を実現していきます。

目指す都市像

- ①安心・安全なまち
市民が地域で安全に暮らせるために
- ②福祉と健康づくりで明るいまち
健やかな生活を願う市民のために
- ③子どもの成長と学習を育むまち
子どもと子育て世帯のために
- ④市民の自立と個性を活かすまち
生涯学習の振興と人権意識の高揚のために
- ⑤人と文化がふれあうまち
人のふれあいを求める市民のために
- ⑥活力と賑わいのある元気なまち
経済的繁栄とゆとりを願う市民のために
- ⑦快適な生活を育むまち
快適な市民生活を望む市民のために
- ⑧持続可能な環境をつくるまち
美しい環境を守り伝えたい市民のために
- ⑨市民と行政の協働を進めるまち
市民が地域に貢献するために
- ⑩信頼される行政を進めるまち
信頼できる行政を望む市民のために